

北海道の「米の消費」と「農水産物の生産額」の相関

市立札幌旭丘高等学校 チーム名:米津麺師 岡田諭樹 加藤榛基 谷口颯一郎

① アブストラクト(研究の概要)

北海道の米消費が多い理由が北海道の農水産物の生産額に関係があると考え、SSDSE(教育用標準データセット)やe-Stat(政府統計の総合窓口)の統計データを用いて相関関係を調べた。結果、北海道の米消費は減少傾向であるものの2022年まで同様の地方よりも消費額は高かった。しかし、どれも相関はなかった。

② テーマ設定の理由、背景、目的等

先行研究『「米・パン・麺」みんなの主食は何?(2023年,嘉屋,木嶋,小橋/旭丘65期)』で、地方(北海道/東北/関東/中部/近畿/中国/四国/九州)ごとに米、パン、麺の家計消費額の割合は異なり、北海道では米の割合が多いことが報告されていた。

それを面白いと思い、その傾向は2023年のデータについても言えるのか、言えるならばなぜ北海道で米の消費が多いのかについて研究したいと思った。

また、全国で米の消費量が減少していることを知り、米の消費量を増加させる方策について研究したいと考えた。

③ 仮説

- ・2023年も米の家庭消費額は北海道が最も多い
- ・北海道の寿司が人気なため漁獲量と米に相関がある
- ・北海道には牧場が多いため牛肉と相関がある

④ 研究方法、手順等

研究1:2023年の傾向を調べる

- 1.SSDSEより2020年~2023年の米の家計消費のデータを得る
- 2.各地方ごとにまとめ、それらを折れ線グラフにする

研究2:米の消費額と食材との相関があるかを調べる

- 1.SSDSEから2023年の米の家計消費のデータを得る
- 2.e-Statから漁業産出額と肉用牛の飼育頭数のデータを得る
- 3.それらの相関係数を調べる

⑤ 研究内容、結果

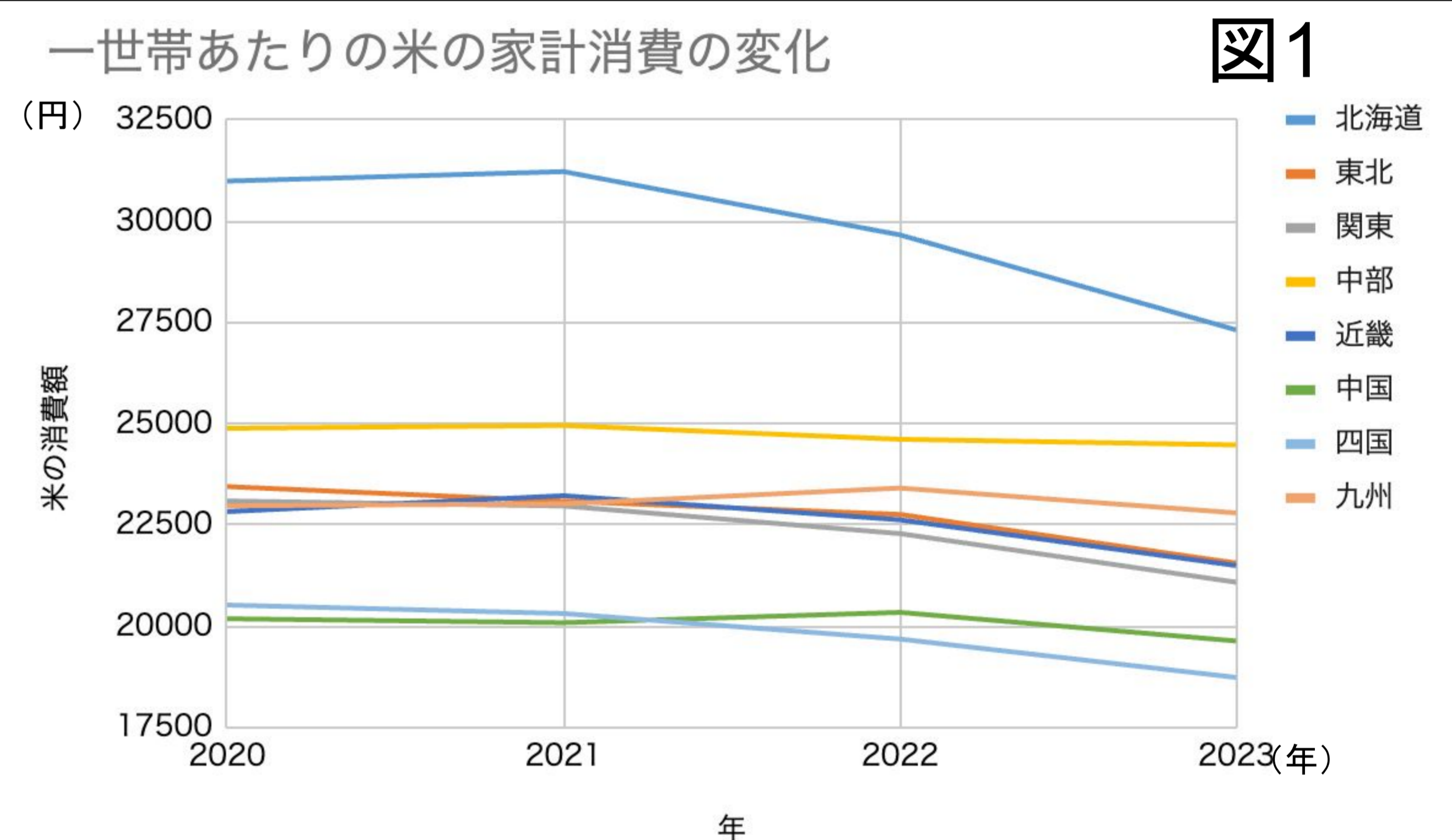
研究1(図1のグラフ)

グラフが右肩下がりであることから米の家計消費は全国的に減少傾向である。

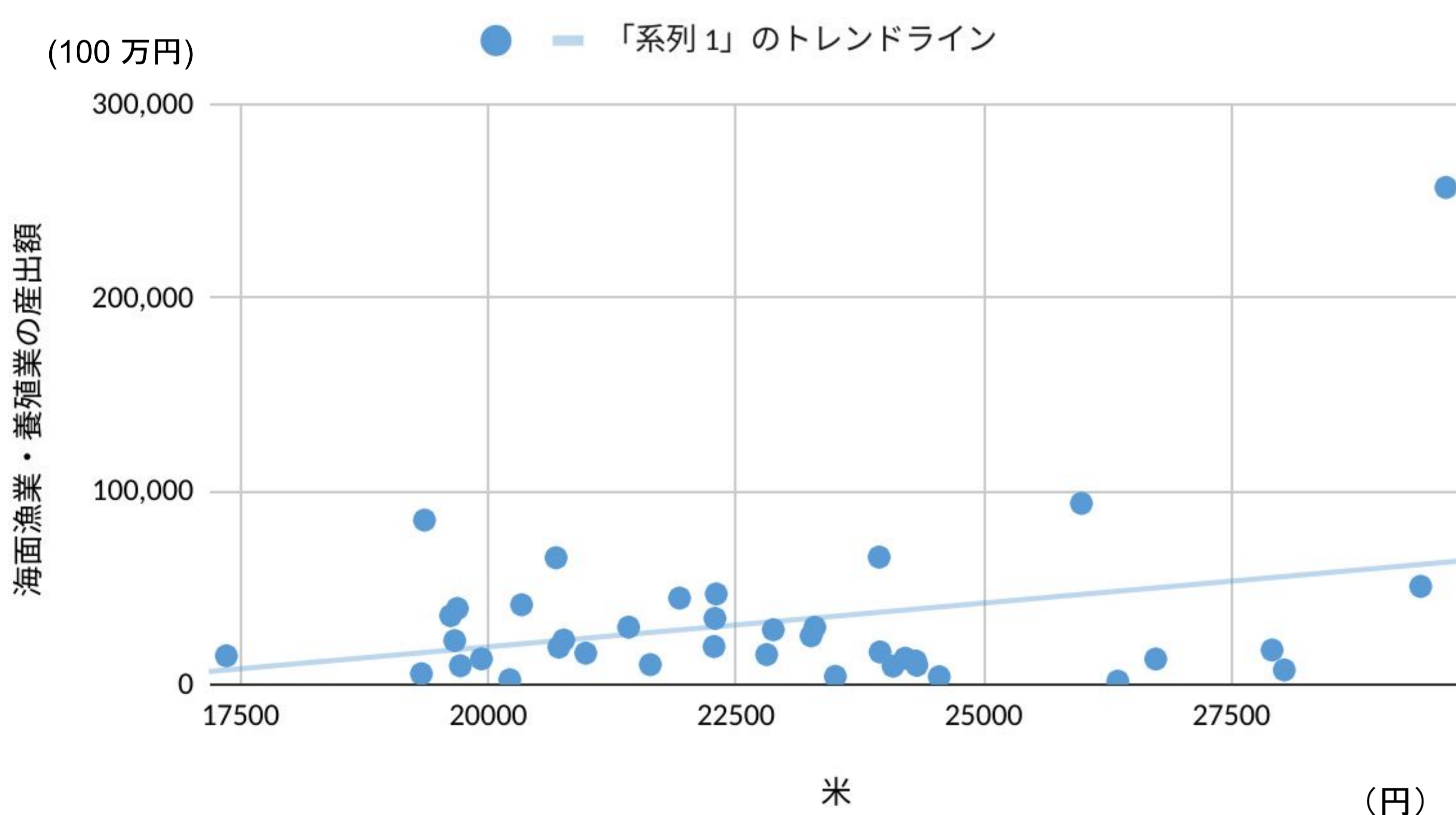
2023年でも北海道では関東より約6200円,四国より約8600円家計消費が多く、全国1位である

研究2(図2,3のグラフ)

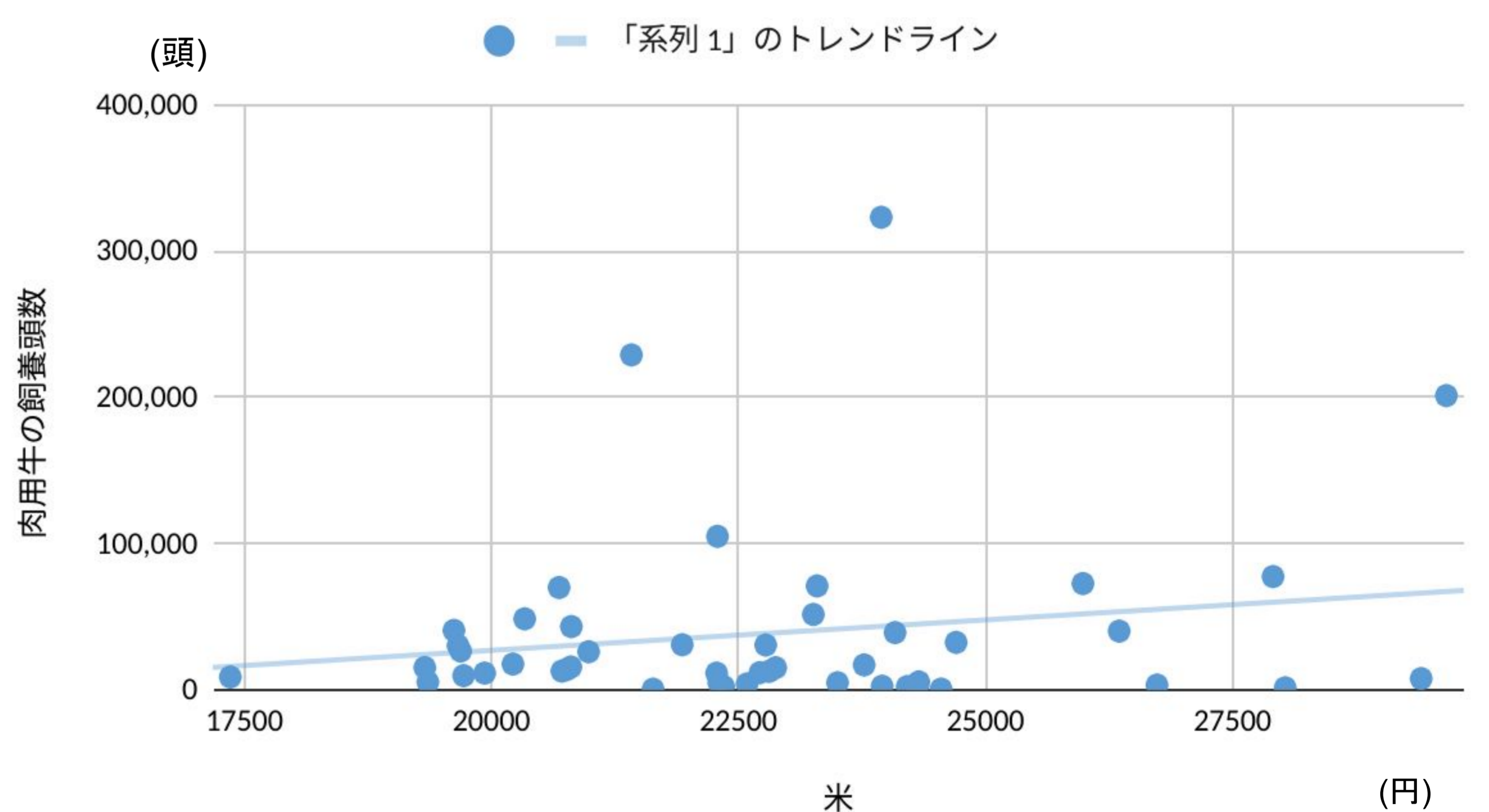
相関係数 図2: 0.18 図3: 0.31
図2,3のどちらも相関はなさそうだった



海面漁業・養殖業と米 図2



肉用牛と米 図3



⑥ 考察

私たちは漁業産出額や牛の飼育頭数と米の消費に相関があると思っていたが、北海道では日本全国や国外への輸出もさかんであるため、米の消費との相関が見つけられなかったのかもしれないと考えた。

北海道では米の生産量が多いが、新潟県や秋田県での消費額は高くないため、生産額の多い都道府県で消費額が多いとは限らない。どのような場所で米の家庭消費額が多いかという問いは解決することができなかった。